



Title	編輯を終へて
Author(s)	酒井, 全太郎
Citation	懷徳. 1934, 12, p. 54-55
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/88917
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

つゝ十時解散する。

御繁忙の御身體にして土曜講演に史蹟研究に臨地講演に、毎々一方ならぬ御世話を賜る中村先生に對し、會員一同深甚の感謝をしてゐる次第である。

▲六月二十九日

去る二十六日逝去せられた湖南内藤先生の京都東山鹿ヶ谷法然院に於ける葬儀に、吉田先生を初め會員十數名參列焼香する。

編輯を終へて

酒井全太郎

皇太子殿下がお生れ遊された、あの朝の譬へやうもない喜びは、どうであつた。日本國の津々浦々まで、老ひも若きも、お芽出度いぢやあ

りませんかと喜びあつたことだつた。あの精神天子様と共に愛ひ苦しみ、共に喜び樂しむ精神こそ、眞に日本精神の表現でなからうか。此の舉國一致の大精神で以て、力強く歩一步、東洋人の理想實現に押し進まねばならぬ。國危くして己むなく干戈を執つて戦はねばならぬことがあらうとも、目指すところは、東洋に平和の樂土建設の土臺となるのでなければならぬ。

藤塚、山本兩君の熱心と、諸先生のお骨折とによつて、得難き玉稿を頂戴した、是によつて我が文化の過程を知り、現在の姿を認識し、進むべき道を勇敢に開拓しなければならぬ。御繁忙の中、特に御執筆下さつた松本、中村、武藤其他の諸先生に心から感謝する。

國歩艱難の際、世界に誇るべき東洋の碩學、

内藤湖南先生が長逝遊された。平素、懷德堂のため一方ならず御心配下さつて、いつもお勵ましのお言葉を賜つたあの溫顔の先生に、再び接することが出来ないのを思ふと、洵に哀惜の情に堪ねぬ。御遺影、御墨蹟並に御遺稿と共に、狩野、小倉、今井三先生に思ひ出話を承つて掲載し、先生を偲ぶ資料とした。又、中井先生より御寄贈になつた舊懷德堂記録の中、學問所建立記録、懷德堂定約、内外事記等五種を印刷して附録とし、大阪町人の學問所として榮えし其の昔を追懷することゝした。

此の春以來、滿洲國、中華民國の諸名士の來駕を忝ふし、懷德堂の精神に共鳴さるゝところあり、朋あり遠方より來るの樂しみと、徳孤ならざるの悦びとを喫し、我等の使命の重大なる

を覺悟した。斯道の益々隆昌ならんとするこの秋、層一層、諸先生の御鞭撻と、會員諸君の御後援とを希望する。

